

不耕起V溝直播用溝切機



■特 長

1. 不耕起V溝直播栽培の前処理作業として行う冬季耕耘しろかき後、この溝切機で溝切作業をしますと乾田化が促進され、直播機の稼働率が高まります。
2. 溝の両側にできる盛土を均平にしますので表面水の排水が良好です。
3. 播種時に乾いた盛土が播種作業の障害になることがありませんので播種作業精度が高まります。

■仕 様

品 名	不耕起V溝直播用溝切機
形 式	SMD
全 長	7 1 5mm
全 巾	1 6 5 0mm
全 高	7 8 5mm
重 量	3 7 . 2kg



作業状況

※注 意

1. 本機は乗用田植機用で田植機の植付部を取外し、溝切機を装着して使用します。
2. 乗用田植機の機種によって、取付部の構造が異なるため、取付部が変わります。
(但し、不明の機種もあります。)
3. 走行車より田植機部を切り離すと、走行車の後部が軽くなりますから、移動用の自動車への乗り降り・水田への出入りには前方へ転倒する危険性がありますから、走行車の後方にウエイトを取り付けて転倒しないようにして下さい。(5条で40kg以上)

※注 仕様及び構造は予告なく変更することがあります。

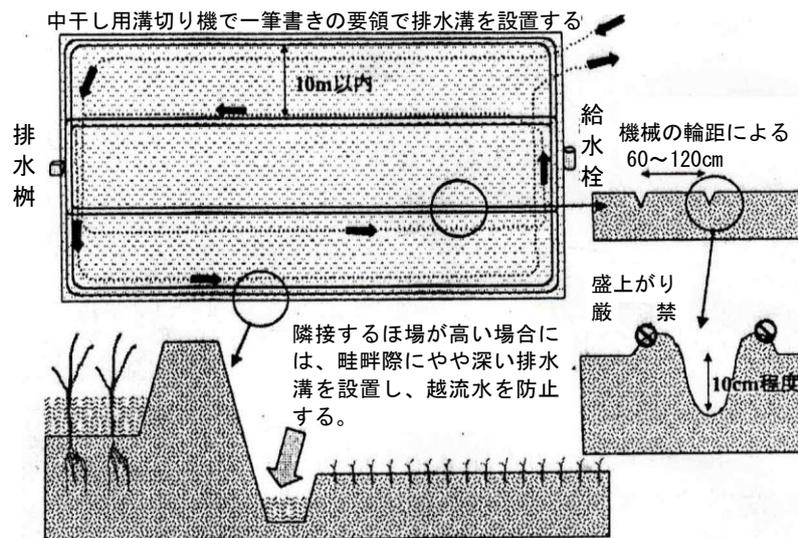
鋤柄農機株式会社

〒444-0934 愛知県岡崎市矢作町字西林寺 38
 TEL (岡崎 0564) 31-2107 (代)
 FAX (0564) 33-1171
 URL=<http://www.sukigara.co.jp/>

代かき後、ほ場の減水が進み、あちこちに水たまりが残る状態になったら、中干し用の溝切り機で排水溝を設置する。この排水溝は、ほ場に水がたまらないようにして、いつでも播種作業ができる状態を保つためと、播種後の湛水を防ぎ出芽・苗立ちを安定化するために設置する。

ほ場の周囲及びほ場の長辺方向に10m間隔程度に設置するのが一般的である。中干し用の溝切り機で作る排水溝は播種作業には全く支障とならないので、「乾きにくい」ほ場は間隔を細くしたり、短辺方向に設置してもよい。いずれにしても「排水溝」であるから、水尻まで連結されていることが必須で、機械でできない箇所の「ちょっとした手作業」を決して怠ってはならない。

中干し用溝切り機による排水溝の程度は、作業時のほ場の乾燥状態（水の引き具合）と土性によって異なる。水の多い状態では、作業直後に泥が戻ってしまい十分な深さ（10cm程度）の溝ができない。逆に水が少なすぎる状態（乾いてしまった状態）で作溝すると溝の肩が盛り上がり播種時に支障となる。土壌は湛水状態でも締まっていくため、代かき後湛水を保った状態で十分な時間が経過すれば、表面に多少水があっても戻りが少なくきれいな排水溝を作ることができる。また、水が完全になくなって、肩ができやすくなった場合には、ほ場にもう一度少し水を入れるときれいな溝ができる。



排水溝設置の留意点

「冬季代かき」を丁寧にしても、風下側のほ場隅には稲わらや大豆莖莢などの前作残さが吹き寄せられている場合がある。「吹き寄せ」の下は土壌の乾燥が不十分で播種時にトラクタが落ち込み播種がうまくできないことが多い。また、うまく播種できた場合にも、残さにより覆われた部分は地温が上がりにくく出芽が遅れ、さらに、入水後は残さから染み出る有機酸などでせっかく出芽したイネが枯れてしまうこともある。このような「枯れ寄せ」は、残さが乾いたときにブロワーでほ場中央部に吹き飛ばして拡散させる。

播種後も稲の本葉二葉期の入水までは、除草剤散布の関係から乾田状態を保つ必要があるため、播種作業で溝を踏みつけ、溝が埋まった部分は手作業で溝を浚え排水を良好に保つようにする。